

## 第4回東郷地域協議会会議録(要約)

日 時 令和5年7月18日(火) PM 7:00 ~ 9:00

場 所 新城市役所4階会議室

出席者 委員25名 事務局4名

### 次第

- 1 あいさつ
  - 2 報告
    - (1) 令和5年度地域自治区予算事業の進捗状況について
  - 3 協議
    - (1) 令和6年度地域自治区予算事業の検討について
  - 4 その他
    - (1) 地域計画推進体制検討会からの市長への提案書について
- 

### 1 あいさつ

### 2 報告

- (1) 令和5年度地域自治区予算事業の進捗状況について
  - ・多世代交流事業(東郷学び学校開催チラシ)
  - ・長篠設楽原の戦い歴史検定作成事業(歴史検定初級編の開催)

#### ◎主な意見

委員 東郷学び学校の企画運営に関わっていない限りは、こういうものをやっているかどうかも知らない。組の回覧を見て、開催を初めて知る。内容はすごいことだと思うが、規模感や運営側の人数や会議回数について教えていただきたい。また、東郷体育振興会との関わりはないのか、活動はボランティアで活動しているのか。

事務局 東郷在住の方で手を挙げていただいた6名の住民の方と事務局職員の計7名で企画運営をしている。活動に関しては、ボランティアではなく、共育コーディネーターという名称として地域自治区予算で活動費を計上している。大体月に1回くらい会議を開催している。

委員 イベントの中身はすごく良いと思う。ただ、東郷に住んでいるどれだけの人が、足を運んでくれるのかというのがまだ分からない。例えば、スポーツの問題でも、自分の区で運動会を今年初めてやめた。みんなが参加出来ないから、代わりにウォーキングを計画している。東郷体育振興会でも色々やっていると思うが、なかなかそこまでの余裕がない。そういう中でこれだけ立派な行事をやるので、何とか多くの人に来てもらって、活かしていかないと勿体ない。ただ、どうしたらいいかなど。

事務局 周知として、開催チラシを5,000枚印刷して、こども園小学校中学校に配布するのと、各戸配布で各世帯に配布する予定。前回は300人くらいの来場者があった。ただ、東郷の人口規模からしたら、当然少ないと思うが、コロナ禍だったというところもあつ

た。今年の夜店がすごく大勢だったように、やはりそういう賑やかなところを今人は求めてると思うので、今年の学び学校でどれだけ人が来てくれるのかということも、少し期待できるころではある。ただ、やはり回覧版でチラシだけ見てそれで来てくれるかどうかということもあるので、地域協議会の皆様が一番この情報を知ることができるので、ぜひ皆様から周りにお声がけして、人を誘って来ていただきたい。

委員 地域協議会に関わった以上は当然宣伝する。そういう人が増えない限りはなかなか関わる人が増えていかない。

### 3 協議

#### 協議会の会議録署名

- ・定数 29 人のところ 25 人の出席があり会議は成立している。
- ・会議録署名について、会長及び署名委員を 2 名指名し署名をお願いした。

#### (1) 令和 6 年度地域自治区予算事業の検討について

##### (事務局説明)

- ・前回の地域協議会での意見に対しての市担当課の取り組みや意向を整理するとともに、実行団体の来年度予算要望などを報告した。

その後、地域計画の 5 つの柱ごとにグループに分かれ、令和 6 年度地域自治区予算事業計画の検討を行った。討議終了後、各柱のリーダーから議論内容の発表があった。以下発表要旨。

#### 柱 1 暮らそう

- ・高齢者の引きこもり問題と子どもの不登校や引きこもり問題を話し合った。社協の生活支援コーディネーターの方にも色々話を伺い、現在取り組まれていることの詳細も伺った。その中で、今健康麻雀を開催されていて男性の外出が進み、10 名くらい参加されていることや、ミニデイの助成金を使って居場所づくりにもなっていることや結カフェも開催されているという話を聞いた。
- ・1 点目に、相談窓口の一本化について。例えば、結カフェをやっていない地域で実践してやっていきたいというときに、どこに相談していいかわかりづらいというところがあったり、別の問題で、介護看取りについても、福祉のことが分からなくて、どこに相談すればよかったのか、結局介護度が下りた時にはもう間に合わなかったという事例もあり、そういったことが届くような社会というか、市役所の高齢者支援課や福祉課、社協などがあるが、相談窓口を介護、障がい、引きこもりなど色々全般あるが、それらを一本化して、住民がまずどこに相談したらいいかを明確化してもらえたらいいという提案をさせてもらった。そこに関しては、まだ今検討もされているところということで、そこを進めていって欲しいという話をした。
- ・2 点目に、各団体間の連携・情報共有について。引きこもりの問題はこう対処したらいいと掲載されているパンフレットがあるが、そういった情報は住民の手には入りにくいという実情もあり、それをどう結びつけて、例えば今は民生委員さんの方には、協議会と社協は繋がってはいるけれども、住民との繋がりが弱い。また、地域のグループと社協が繋がってなかったりする。お声掛けすれば繋がると思うが、社協から地域のグループの方たちにもお声掛けをしてもらい、福祉の分野で新しい法制度等があったら、啓蒙活動してもらえないかという提案もさ

せてもらった。また、引きこもり問題だが、現在、30代から50代ぐらいの方から相談があるようで、暮らしごとサポートセンターというところがある。そこで家族会の立ち上げをこれからしようとしていて、家族の雑談会や引きこもりの方々の交流会もある。私たち住民が地域で活動をしようとするときに、引きこもりの方たちにお声掛けするにも情報が無いとか、そういった部分で一緒になって、これから立ち上げるにあたって、情報共有してやっていけないかと提起させてもらった。

- ・3点目に、居場所づくり・イベントの企画運営について。公民館を活用しながら、高齢者だけじゃなく、子ども大人も高齢者も地域の中で居場所ができる。今はミニデイが地域ごとに頑張っているが、やっていない地域もあったりするので、そうすると高齢者だけに視点が当たってしまうので、多世代交流型のカフェとか、交流型のイベントの開催も検討していかないかという話も進めていきたい。実際に、鳳来の地域計画推進委員会では、そういったことも進められてるという話もあったので、そういった事例も一緒に学ばせてもらいながら、来年に向けて、事業化できるようにもう少し詰めていきたい。

## 柱2 守ろう

- ・1点目に、可燃ごみ集積場の問題は、ひとまず市にお任せしたいので、これは検討から除外している。
- ・2点目に、グリーンベルトについても、予算が非常に大きいということで、これも市の方に検討をお願いしようということで検討から除外している。
- ・3点目に、新たに安全対策として今日出たのが、小中学校の通学用ヘルメットを改善してはどうか。具体的には、小中学生は古典的なヘルメットや帽子を被っているということで、もう少しファッション性と安全性を兼ね備えたヘルメットを提案してみてもどうか。一つの事例として、浜松市や豊川市は、ヘルメットをお洒落なものにしているという事例もある。これも市全体ではなくて、東郷地域をまず一つのモデルケースとしてやってみたらどうかという提案を考えている。これは教育委員会など様々なハードルがあるが、次回の会議には、市の教育委員会の方とお話をして、具体化に向けて検討していきたい。
- ・4点目に、ソーラーパネル設置と耕作放棄地の問題。最近では、馬防柵周辺にソーラーパネルが出来るかもしれないという情報を皆さんお聞きしているかもしれない。耕作放棄地を何とか有効活用していきたいという案となる。これは非常に奥が深過ぎて、切り口が難しいが、イモリを養殖したり学校に配ったりとか、何らかの施策で、将来的には一般社団法人化を視野に入れながら何か出来ないかと考えている。これも我々だけで話すだけだと、なかなか前に進みにくいので、担当課に次回の会議に来ていただきたい。1度の会合で2つの課と話をするのは非常に難しいけれども、この2つの話を切り口に、次回の会合で展開をしていきたいと考えている。

## ◎主な意見

- 事務局 ファッションと安全性を兼ね備えたヘルメットを子どもたちに配ったり補助したりするという内容かと思うが、これは自転車に乗るときにだけ被ってもらうということか。
- 委員 自転車に乗る時だけでなく、徒歩も含めて通学の時に被ってもらいたい。統一のものを着用義務化する。全員にヘルメット代を補助するのか、あるいは、安いのであれば購入して配るのかは今後検討の余地がある。

### 柱3 育てよう

・本年に事業化のハードルは高いというのが率直な感想。事務局が色々と調べてくれて、その資料を元に話した。長野市の長沼ワークライフ組合の取り組みが面白く、今後各地域で必要になってくるのではないかという話だった。ただ、草刈だけでお金を稼いで事業化していくのはなかなか厳しいという話の流れになった。そこで、草刈を含む空き家の管理事業に話が膨らんでいった。新城市としても、本当に空き家の問題は今後どんどん大きくなっていくと思う。新城市の中でも空き家の調査は始まっていると思っている。行政側とも協力しながら、空き家の管理事業、例えば、お墓掃除、田畑の草刈り、家屋のメンテナンス、空き家を月に1回開ける、台風の後に見回りするなど、何かそういう仕組みを作って、例えば新城市にはもう住んでいない地権者の方から年間1万、2万とかプランを決めていくらかもらう。例えば、ここまでやるのであれば1万円、もう少しやって欲しかったら2万円など、そういう事業としてお金をいただいて実施する。そういうことをもう少し詰めていって、地域協議会で話し合っただけで予算立てをして来月提案出来たらと思う。ただ、実際にこの事業の事務局を誰がやるのかという問題がある。それは事務所を持っている方に頼むしかないが、例えば、戸田工務店さんやあみや商事さんなどが候補として出た。将来的に事業化したら回っていくのだけど、初期のところはなかなか個人では難しいので、そういう社会貢献として協力してくれるような企業さんを探して、事務局をやってもらったらどうかというような話に落ち着いた。しかし、まだどれだけ予算がかかるかとか、そういうところまでは話は進んでいない。

### ◎主な意見

会 長 来年度の予算で、そういうことを考えていく会を発足させるのはどうか。メンバーを募集し考える会を発足する予算立ては考えられないか。例えば、メンバーを5~6人集めて活動する予算を年間いくらか取る。そうでないと、その事業を考えていくのは育てようの柱の委員が月に1回だけ地域協議会の中で話し合うことになる。それでは会議回数が足りないから、月に2回とか、もっと会合を増やしていって、その会で事業を検討し予算化を考えていく。そうでないと、何年も先のことになって、下手すると絵に描いた餅状態になってしまう。

### 柱4 学ぼう

- ・1点目として、歴史検定についての予算のみとなるが、実行委員が今7人で積算をしている。委員を増やしたい気持ちはあるけれども、なかなか増えない現状もある。よっぽどこの金額の中でやりくりできると思われる。また、消耗品費だが、缶バッジは事務用品で、今年度と同額になっているので足りるかどうかと思うけれども、それほどいるものでもないというのが現状。印刷製本費は、問題集中級編を300冊作る予定となっている。検定をPRする印刷製本費にチラシとあるが、ポスターも作りたい。検定料については、初級中級と2回分の500人分という計算でいいと思っている。
- ・2点目として、もつくる新城周辺散策マップを作る事業については、次回の地域協議会で各委員の希望を持ち寄って話すということだったので、今年度予算ではあるが進めていきたい。

## 柱5 楽しもう

- ・本日は協議はほぼしておらず、最初に事務局から報告いただいた予算積算の方で問題ないと確認して終わった。学ぼうの柱とのPRの協力については次回以降で時間取れば話をしておきたい。また、現状で積算が終了しているので、予算についてや、新たに検討すべき事項が出てきたら、それについて次回以降は検討したい。

## 4 その他

### (1) 地域計画推進体制検討会からの市長への提案書について

- ・前回の会議では地域計画推進体制検討会からの市長への提案書の内容を説明した。これについて、地域協議会委員からは特に意見はなかった。
- ・7/14に地域計画推進体制検討会の最後の会議があり、法人化の削除等の文面の最終調整を行った。提案書は事務局を通じて市長の方に提出させていただく。
- ・提案書の内容については、必ずしもこの内容で決定というわけではなく、あくまでも理想形となる。今後東郷地域で人口が減り、地域の人材不足や資金不足等、様々な問題を抱えていく中で、今後東郷地域で地域計画を推進していくためにどのような方策が良いのかを、地域協議会のOBや現役メンバーの中で検討させていただいた結果がこちらの提案書となる。ぜひとも地域協議会として市長に提出することに関し了承をいただきたい。

⇒ 地域計画推進体制検討会が作成した市長への提案書については、賛成多数により了承された。事務局を通じて市長に提出する。

【21:00 終了】